

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立桜堤中学校
校長名	吉岡 大司

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・ 2 学年数学では全国平均正答率を 0.2 ポイント上回り、昨年度と比べても 0.1 ポイント上昇した。毎時間 5 分程度の復習時間を設けていることや、グループ学習やジグソー法を取り入れて生徒の基礎学力の定着や学習意欲を高める取り組みの成果と考えられる。 ・ 3 学年国語の全国平均正答率が前年度と比べて+2.2 ポイント上昇し、DE 層も 46.0%から 39.3%に減少した。主張や根拠を添えて文章を書く学習に重点を置いた結果、「文章を書く」項目が全国平均よりも 14.5 ポイント上回った。 ・ その他、2 年国語「読むこと」が前年度比+10 ポイント、英語「聞くこと」は全学年ほとんど全国平均を上回る等、領域別でみると伸びが見られる部分もある。	・ 1 学年英語、2 学年数学以外のすべての学年、教科で全国平均正答率を下回っている。 【国語】漢字の書き取りや文法、複数の資料や考えを読み取り、統合して自分の答えを書く力に課題が見られる生徒が多い。 【数学】図形の性質や関係を根拠に基づいて考察する力や、関数などの事象の変化や対応の規則性を捉え、表や式、グラフと関連付けて考察する力に課題がある。 【英語】読む力、書く力、ともに課題がある生徒が多く、2, 3 年の半数以上が D E 層である。 【社会】基礎分野で課題のある生徒が多く、特に歴史的分野の知識問題の正答率が低い。 【理科】知識の定着に課題がある生徒が多いことに加えて、計算作図問題を中心に無解答率の高く、知識を応用する力が不足している。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 「好きな教科や授業はありますか」に対して、の肯定率は、全国平均値が全学年 88～91 ポイントに対して、本校は 85～89 ポイントと、大きな差はない。したがって、意欲を高めやすい好きな授業からでも良いので成果を出せる指導を行い、自信を育てて、他の教科の学習意欲へつなげたい。	・ 予習復習を行っている生徒の割合が、全国平均と比べて 10～20 ポイント低い。 ・ 学習時間については、平日 0 分～30 分の生徒の割合が、全国平均よりも 10～20 ポイント低い。土日ではさらに差が大きく、全国平均比で 30 ポイント以上低い。本校では土日はほとんど勉強していない生徒の割合が 70%を超えている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・グループワークは活発に行い、積極的な発言につながっている。 ・ドリル学習や定期考査対策には積極的に取り組める。 ・休み時間に次の時間の授業の準備を整え、チャイム前に着席する呼びかけを、教師と代表生徒で行っていて、ほぼ定着している。 ・授業妨害は許さないという雰囲気がつくられている。	・授業規律の改善を促す指導は継続して行っている。 ・発言する生徒が決まっている教科もあり、学力層の二極化が進んでいる。 ・話し合い活動に苦手意識をもつ生徒が少なくない。 ・資料やグラフ、根拠となる事象を関連付けた考察に課題がある生徒が少なくない。 ・家庭学習や振り返りカード等の単元まとめの提出状況は、おおむね提出できている教科もあれば、提出率が低い学年教科もある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 桜堤中学学習スタンダードの徹底を図り、教師の授業力を育み、授業改善を推進する

生徒の基礎学力の定着には、授業規律の徹底や教師の授業力向上、授業改善が必須である、全教科の授業の導入時に「学習のねらい」を明示したり、授業終わりには、学習のねらいが達成できたかなどの生徒のアウトプットの場合「学習のまとめ」を設定したりすることの徹底を図る。

具体的な授業改善

- (1) 授業の準備として、教材研究を十分行った上で実施する。
- (2) 授業のはじめに、本時の「めあて」を板書し、明示する。
*課題を把握するなどの「考える」時間の確保や前時の復習や既習事項の確実な実行。
- (3) 授業の展開（学習方法の工夫）
*自力解決（自分なりの考えで解決をさせる。）
*学び合い（ペアーワークやグループ学習等の導入）
- (4) まとめ時間の確保
*授業の中間、25分を意識した授業計画をすることで、まとめを確実に実施する。
*授業の始まりと終わりの時間を守り、1単位時間50分の学習時間の確保。
- (5) 少人数習熟度別指導などを活用（多様な授業形態やICT機器等の活用）
- (6) 次の授業準備（机上に、教科書やノート等の学習道具が揃える）など、生徒自らがチェックできる取組やチャイム着席の徹底を図り、生徒が主体的に取り組む姿勢を育む。

(2) 紙媒体の教材やデジタルを活用した学習を併合した学習指導

本校の学力向上の喫緊の課題は、DE層の底上げである。デジタルを活用した学習（ロイロノート等）やAI教材を活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に取り組む必要がある。

デジタル学習を活用した授業や家庭学習、定期考査前の朝学習では、各教科担当が、定期考査対策用の問題を作成するなどして、ある一定期間、デジタル学習を活用した計画を推進する。

さらに、ドリル的な紙媒体の教材を繰り返し、毎時間、適量を反復的に行わせることで、生徒が苦手な問題に対して、つまずかずに、基礎を固められるよう指導の一層の徹底を図る。

このことで、DE層が主体的、自律的な学習ができ、生徒自ら効果的な定着方法を理解し、学習が継続できるようにする。そして、ABC層の生徒に対しても、一層の学習の習熟度を深めさせるた

め、「ふりかえりシート」や「ミライシード」、「理科社会のデータベース」を活用して、基礎基本の定着や応用力を身に付けさせるための基礎とする。

《実施時期》

- (1) つまずきのある(C層、D層)生徒への取組強化として、振り返り強化期間の設定
「ふりかえりシート」や「ミライシード」等活用する。
Ⅰ期 9月1日～10月9日 Ⅱ期 1月12日～1月15日
- (2) 学力向上委員会の教員が中心となり、夏休み補習教室や前期中間考查修了後、6月下旬より毎週、学力補習教室(数学・英語)等の企画・運営を提案させ、全学年で実施する。
- (3) 令和9年1月から令和9年3月まで、当該学年の振り返りを実施(全学年実施)
SSSに冬休み前にふりかえりシートや学力調査等の問題を印刷するなどして準備させ、テストや問題に慣れることを定着させ、「できる」「分かる」までの学びを繰り返す。

(3) 家庭学習の習慣化と自己調整力の育成

本校独自に作成したエクセル形式の日課表及び紙媒体の日課表を活用し、生徒が自ら学習や生活の計画を立て、記録・振り返りを行うことで、「自ら学び、考え、行動し続ける力」や「自己調整力」の育成を図る。この取組を通して、記録する習慣や時間・日時を意識して行動する習慣、毎日の生活や学習を振り返る習慣を身に付けさせる。また、家庭学習については、各自が学習計画を立て、毎日の学習時間や学習内容を日課表に記録するとともに、授業で使用した「ふりかえりシート」、ミライシード、ロイロノート、各教科で作成した定期考查対策問題等を活用した反復学習に取り組ませることで、家庭学習の習慣化と学習内容の確実な定着を図る。

さらに、定期考查前には家庭学習強化期間を設定し、学習計画表を活用しながら計画的な学習を行わせるとともに、学習時間の確保と学習内容の充実を図る。日課表は毎日ロイロノートで学級担任へ提出させ、生徒一人一人の生活リズムや学習状況を継続的に把握し、適切な助言やフィードバックを行う。これらの取組を通して、生徒が家庭学習を主体的かつ継続的に実施できる力を身に付け、自ら学習方法を工夫・改善しながら、自律的に学び続ける態度を育成する。

(4) 校内教職員研修を充実させた取組

体育科を中心とし、9教科と教科横断型コラボ授業を実施し、学力向上を図る。

(5) 各種検定を推奨し、タイピング強化週間や5教科「コンテスト」の実施

生徒に、各種検定(漢検・英検・数検)を積極的に受検するよう、声かけや学習支援を行うことで、家庭学習や自学自習の機会を設定する。

朝学習(毎週火曜日～金曜日の8:20～8:30)を活用した令和4年度より、実施しているタイピング強化週間(年2回検定)や5教科「コンテスト」を計画的に実施する。

さらに、朝読書を、計画的に実施することで、授業に対する構えや理解力の向上を図る。

(6) 国際理解教育の充実を図ることで、英語力を向上させる(台湾交流等)

令和8年9月から第一学年の生徒を中心に、台北市立萬華国民中学校の第1学年の英語の授業を、オンラインで受講させ、英語への興味関心を図るとともに、英語力をさらに向上させる。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・各教科の授業で「ふりかえりシート」や「ミライシード」を活用し、目標値よりも低い内容項目の復習を行い、まずは、全国平均より、1以上上げる。
- ・各教科の授業や自宅学習において、繰り返し学習を行い、基礎学力の定着を図り、DE層をBC層引き上げる。特に、D層からC層、C層からB層へ引き上げる。DE層の割合を5%減らす。